

# 地域子育て支援拠点施設における利用者満足の規定要因

寺田和永 (環太平洋大学短期大学部講師)

津川秀夫 (吉備国際大学心理学部教授)

## 要旨

地域子育て支援拠点事業は、子育て中の親子が気軽に集い、相互交流や子育ての不安・悩みを相談できる場の提供を目的としている。本研究では、拠点施設を利用する保護者の満足度を規定する要因について検討した。また、利用者が多く集まる施設の特徴を検討した。X市にある5つの施設を訪れた利用者105名に、46項目の質問紙へ回答を求めた。因子分析の結果、拠点施設の満足度を規定する要因として〈スタッフ対応の良好さ〉〈子育ての見通し〉〈施設の利用環境〉〈子どもの活動場所〉の4因子が抽出された。そのなかでも重回帰分析の結果から〈スタッフ対応の良好さ〉〈子育ての見通し〉〈施設の利用環境〉の3因子が総合評価に直接影響を及ぼすことが示された。また、利用者が多い施設は〈スタッフ対応の良好さ〉〈施設の利用環境〉の得点が高いことが明らかとなった。

**キーワード：**地域子育て支援拠点事業、満足度規定要因、利用者評価

## 目 的

本邦では、核家族化や地域とのつながりの希薄化が進んでおり、これに伴って子育ての孤立や子どもの人との関わりの減少などが指摘されてきた(厚生労働省, 2017a)。

地域子育て支援拠点事業(以下、拠点事業)は、このような課題への取り組みとして平成20(2008)年度より社会福祉法における第2種社会福祉事業として法定化された。従来の地域子育て支援センターやつどいの広場事業が再編・統合されたもので、①子育て親子の交流の場の提供と促進、②子育て等に関する相談・援助の実施、③地域の子育て関連情報の提供、④子育て及び子育て支援に関する講習等の実施の4本柱を事業の基本に掲げている(厚生労働省, 2017a)。また、拠点事業をおこなう施設数は、創設時には4,889ヶ所であったが、平成28(2016)年度では7,063ヶ所と増加しており、今後も10,000ヶ所を目標に拡充されていく見込みである(厚生労働省, 2017b)。

このように地域と結びつきをもちながら子育てができる環境の整備が進められてきた。さらに、拠点事業の充実に向けて、実施施設の現状や課題(橋本, 2011; 安川, 2014)、スタッフの役割や業務(橋本・中谷・越智・水枝谷・山縣, 2009; 松永, 2005; 富田, 2014)についての検討も進んでいる。しかし、地域や実施場所の違いによる支援内容の格差といった問題もあり(渡辺, 2010)、これを是正していくために一層の検討が求められている。

小野(2013b)は、これまでの研究の多くが支援側の視点によるものであり、利用側の視点による検討も

必要であるとし、利用者を対象にした満足度に関する検討を行った(小野, 2013a; 2013b; 2016)。これら一連の研究によると、拠点事業の利用者の満足度を規定する要因は〈スタッフの対応〉〈交流・仲間づくりの機会〉〈サービスの提供環境〉の3つからなることが明らかとなった。また、3つの要因は、他の親子への紹介意向や継続の利用、総合満足に影響を及ぼすことが示された。

このように拠点事業の利用者満足度を継続的に把握する試みは、利用者に資する事業へと発展させるうえで有意義なものと捉えられる。ただし、質問項目においてスタッフの子どもへの対応に関するものや子どもが施設を利用することの有用性を問うものが少ないことが課題であった。そこで本研究は、小野(2013b; 2016)の質問項目を見直し、子どもにとっての有用性を含めたいうえで利用者の満足度を規定する要因について再度検討することを目的とした。加えて、利用者数の多い拠点施設について、その施設の特徴を明らかにした。

## 方 法

### 対象者

X市において子育て支援拠点事業を実施する施設は計5ヶ所であり、本研究では全施設を対象に調査を実施した。対象者は各施設に来所した子どもの保護者116名のうち、質問紙の回答に欠損値のなかった105名とした(5施設の回答者数の内訳は、多い順に43名、22名、14名、13名、13名)。なお、拠点事業は、実施形態の違いから一般型と連携型に分類されるが、本研究をおこなったX市では、いずれも一般型の施設であった。

## 質問紙

## (1) 利用者に関する質問

「保護者の年齢」「子どもとの続柄」「家族の人数」「子どもの人数」を尋ねた。また、施設の「利用回数」について尋ねた。

## (2) 利用者満足度に関する質問

小野（2013a）で用いられた42項目に保育園や幼稚園で実施されている保護者の満足度調査の項目を加えてKJ法（川喜田，1967）をおこなった。保護者の満足度調査の項目は、インターネットで調査を公開している保育園と幼稚園からそれぞれ10か所ずつ無作為に選出し質問項目を抽出した。各調査から得られた項目総数は計403項目であった。保育士養成校の教員3名と学生5名が、全項目をカード化してグループ分けをおこなった結果、計46項目の質問紙が作成された（資料1）。回答法は「とてもそう思う(4)」～「全くそう思わない(1)」の4件法であった。

## 調査手続

2016年10月下旬から2017年1月下旬に実施した。第一著者が対象の施設へ調査内容の説明と依頼をおこない、質問紙を配布した。そして、来所した保護者に対して施設の職員が調査を依頼し、同意を得られた者にその場で回答を求めた。なお、回答者が率直な回答をおこなえるように質問紙は無記名であり、封筒に入れて回収した。

## 資料1：施設満足度を尋ねる質問紙

以下の質問は、あなたが当支援ルームを利用する理由について尋ねるものです。文章を読んで、「とてもそう思う(4)」から「全くそう思わない(1)」のなかで、一番当てはまると思う数字に○をつけてください。

|                        | 4 | 3 | 2 | 1 |
|------------------------|---|---|---|---|
| 1. 利用しやすい雰囲気である        | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 2. 安心して利用することができる      | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 3. アクセスが便利である          | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 4. 利用したいときにすぐ利用できる     | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 5. 建物や設備は整っている         | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 6. 空間の大きさ（スペース）はちょうど良い | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 7. 利用時間・期間はちょうど良い      | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 8. 広報が行き届いている          | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 9. 清潔で、衛生的な環境である       | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 10. 親切に接してくれる          | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 11. 必要な助言をくれる          | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 12. 必要な情報提供をしてくれる      | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 13. 必要なサービスや支援につないでくれる | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 14. 気持ちや考えを十分に聞いてくれる   | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 15. 気持ちや考えを十分に理解してくれる  | 4 | 3 | 2 | 1 |

## 結果

## 回答者の背景

回答者の背景に関する結果を表1に示した。

「保護者の年齢」は30～34歳が44人（45.53%）と最も多く、次に35～39歳が27人（25.89%）であった。「子どもとの続柄」は、母親が100人（95.65%）であった。「家族の人数」は、3人家族が52人（49.14%）、4人家族が35人（32.76%）の順であった。また、「子どもの人数」は1人が59人（56.52%）、2人が34人（32.17%）であった。これらから、30代の母親とその子どもの利用が多いことや核家族世帯の利用が目立つことが示された。

## 利用者の満足度を規定する要因

利用者満足度に関する質問46項目のうち、総合評価を尋ねる5項目（「求めている通りであった」「思っていた通りであった」「全体として満足している」「今後も継続的に利用するつもりである」「友人や知人に

表1：回答者の背景

| 保護者の年齢  | 10代 | 20-24歳 | 25-29歳 | 30-34歳 | 35-39歳 | 40代 | 50代以上 |      |
|---------|-----|--------|--------|--------|--------|-----|-------|------|
|         | 0   | 3      | 17     | 44     | 27     | 11  | 3     |      |
| 子どもとの続柄 | 母親  | 父親     | 祖母     | 祖父母    | 親戚     | その他 |       |      |
|         | 100 | 1      | 3      | 1      | 0      | 0   |       |      |
| 家族の人数   | 2人  | 3人     | 4人     | 5人     | 6人     | 7人  | 8人    | それ以上 |
|         | 1   | 52     | 35     | 11     | 2      | 4   | 0     | 0    |
| 子どもの人数  | 1人  | 2人     | 3人     | 4人     | 5人以上   |     |       |      |
|         | 59  | 34     | 8      | 1      | 3      |     |       |      |

注：表中の数字は人数

表2：利用者満足度の因子分析結果

|                                 | I           | II         | III        | IV         |
|---------------------------------|-------------|------------|------------|------------|
| I：スタッフ対応の良好さ ( $\alpha=.95$ )   |             |            |            |            |
| 14. 気持ちや考えを十分に聞いてくれる            | <b>1.01</b> | -.15       | .00        | -.08       |
| 13. 必要なサービスや支援につないでくれる          | <b>.92</b>  | -.17       | .13        | -.19       |
| 12. 必要な情報提供をしてくれる               | <b>.89</b>  | -.04       | -.02       | -.02       |
| 15. 気持ちや考えを十分に理解してくれる           | <b>.89</b>  | -.14       | .07        | .03        |
| 11. 必要な助言をくれる                   | <b>.88</b>  | -.12       | -.04       | .06        |
| 22. 利用前より不安を感じることが少なくなった        | <b>.71</b>  | .23        | -.07       | -.02       |
| 21. モノの善悪やしつけなどの教育的な指導もおこなってくれる | <b>.68</b>  | .10        | -.03       | -.01       |
| 16. 嫌な思い、困ったことがあったときに伝えやすい      | <b>.62</b>  | .07        | .09        | -.08       |
| 41. 子どもが先生（スタッフ）を慕っている          | <b>.61</b>  | .28        | -.09       | -.04       |
| 18. 気軽に相談することができる               | <b>.54</b>  | .10        | .18        | .16        |
| 17. 気軽に話することができる                | <b>.49</b>  | .18        | .17        | .14        |
| II：子育ての見通し ( $\alpha=.88$ )     |             |            |            |            |
| 33. 少し先の子育ての見通しがつくようになった        | .06         | <b>.91</b> | -.11       | -.08       |
| 32. 他の保護者から体験談を聴くことができた         | -.08        | <b>.87</b> | .01        | -.14       |
| 34. 少し先の子どもの成長の見通しがつくようになった     | .24         | <b>.85</b> | -.21       | -.04       |
| 28. 保護者にとって必要な場所である             | -.22        | <b>.68</b> | .21        | .06        |
| 27. 利用して息抜きができた                 | -.20        | <b>.66</b> | .21        | .04        |
| 30. 子育ての仲間ができた                  | -.05        | <b>.62</b> | .26        | -.06       |
| III：施設の利用環境 ( $\alpha=.80$ )    |             |            |            |            |
| 5. 建物や設備は整っている                  | .12         | .04        | <b>.77</b> | .01        |
| 6. 空間の大きさ（スペース）はちょうど良い          | .05         | .11        | <b>.72</b> | -.18       |
| 7. 利用時間・期間はちょうど良い               | -.05        | .07        | <b>.51</b> | .09        |
| 4. 利用したいときにすぐ利用できる              | .26         | -.09       | <b>.49</b> | .15        |
| IV：子どもの活動場所 ( $\alpha=.85$ )    |             |            |            |            |
| 38. 子どもの大切な遊び場である               | -.11        | -.12       | .07        | <b>.94</b> |
| 37. 子どもにとって必要な場所である             | -.09        | -.10       | -.08       | <b>.92</b> |
| 35. 子どもの成長に良い影響があった             | .31         | .27        | -.14       | <b>.49</b> |
| 39. 子どもの遊び仲間ができた                | .14         | .30        | .03        | <b>.42</b> |
| 因子間相関                           | .59         | .52        | .37        | .56        |
|                                 |             | .52        | .37        | .56        |
|                                 |             |            | .52        | .56        |
|                                 |             |            |            | .56        |

も紹介したい」を除いた41項目について、主因子法 promax 回転による探索的因子分析をおこなった。複数の因子に .35 以上の負荷量が認められた項目および負荷量が .40 未満の項目を削除しながら分析を繰り返しおこなった結果、固有値の変化や解釈の可能性より4因子26項目が抽出された(表2)。なお、4因子の累積寄与率は64.01%であった。第Ⅰ因子は「気持ちや考えを十分に聞いてくれる」「必要なサービスや支援につないでくれる」などの11項目からなり、職員の利用者への関わりを表していることから〈スタッフ対応の良好さ〉とした。第Ⅱ因子は「少し先の子育ての見通しがつくようになった」「他の保護者から体験談を聴くことができた」などの6項目からなり、保護者同士の交流によって子育ての見通しを獲得する様子を表していることから〈子育ての見通し〉とした。第Ⅲ因子は「建物や設備は整っている」「空間の大きさ(スペース)はちょうど良い」などの4項目からなり、施設の構造に関することから〈施設の利用環境〉と命名した。第Ⅳ因子は「子どもの大切な遊び場である」「子どもにとって必要な場所である」などの4項目からなり、子どもが過ごす場を表していることから〈子どもの活動場所〉と命名した。

なお、各因子に付加する下位尺度得点をもとに、Cronbach の  $\alpha$  係数を算出した結果、第Ⅰ因子  $\alpha = .95$ 、第Ⅱ因子  $\alpha = .88$ 、第Ⅲ因子  $\alpha = .80$ 、第Ⅳ因子  $\alpha = .85$  であり、内的整合性のあることが示された。

### 利用回数の多少による比較

施設の利用回数について、5回以下と回答した者は11人(10.48%)、6回～10回が20人(19.05%)、11回～15回が11人(10.48%)、16回～20回が7人

(6.67%)、20回以上が56人(53.33%)であった。そこで、施設を20回以上利用している者を利用多群、10回以下の者を利用少群として、各因子および合計得点の比較をおこなった(表3)。

t検定の結果、〈スタッフ対応の良好さ〉〈子育ての見通し〉〈施設の利用環境〉および〈合計〉において、利用多群の方が、少群よりも有意に得点の高いことが示された。

### 総合評価の高低による比較

46項目のうち総合評価を尋ねる5項目の合計を算出した。そして、合計の平均 +0.5SD 以上を総合評価高群、平均 -0.5SD 以下を総合評価低群として各因子および合計得点の比較をおこなった(表4)。

t検定の結果、全因子および合計において、高群の方が低群よりも有意に得点の高いことが示された。

### 利用者満足要因が総合評価に及ぼす影響

利用者満足度の各因子が総合評価に与える影響を検討するため、各因子を独立変数、総合評価を従属変数として、強制投入法による重回帰分析をおこなった(図1)。

その結果、〈スタッフ対応の良好さ〉〈子育ての見通し〉〈施設の利用環境〉において有意な正の影響のあることが示された。なお、各因子において VIF < 3 であったことから、多重共線性は生じていないと判断した。

### 施設利用者数の多少による比較

X市が公開する平成28年度地域子育て支援拠点事業に関するデータから、本調査を実施した各施設の一日当たりの平均利用者数を算出した。そして、5施設

表3：利用回数の多少による各因子の平均とt検定結果

|               | 多群<br>(n=56) |      | 少群<br>(n=31) |       | t 値    |
|---------------|--------------|------|--------------|-------|--------|
|               | M            | SD   | M            | SD    |        |
| I. スタッフ対応の良好さ | 41.30        | 3.94 | 39.00        | 5.54  | 2.05*  |
| II. 子育ての見通し   | 22.82        | 1.80 | 21.13        | 3.06  | 2.82** |
| III. 施設の利用環境  | 15.14        | 1.38 | 14.06        | 2.11  | 2.56*  |
| IV. 子どもの活動場所  | 15.59        | 0.89 | 15.00        | 1.77  | 1.74   |
| 合計            | 94.86        | 6.71 | 89.19        | 10.32 | 2.75** |

\* $p < .05$  \*\* $p < .01$

表4：総合評価の違いによる各因子の平均とt検定結果

|               | 高群<br>(n=67) |      | 低群<br>(n=22) |      | t 値    |
|---------------|--------------|------|--------------|------|--------|
|               | M            | SD   | M            | SD   |        |
| I. スタッフ対応の良好さ | 42.54        | 2.46 | 36.09        | 5.45 | 5.37** |
| II. 子育ての見通し   | 23.37        | 1.28 | 19.86        | 2.97 | 5.39** |
| III. 施設の利用環境  | 15.46        | 1.11 | 12.95        | 2.01 | 5.58** |
| IV. 子どもの活動場所  | 15.87        | 0.46 | 14.23        | 1.93 | 3.96** |
| 合計            | 97.24        | 3.93 | 83.14        | 9.14 | 7.03** |

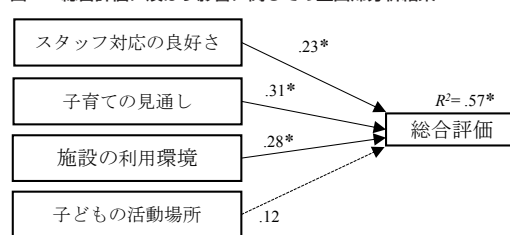
\*\* $p < .01$

表5：利用者数の多少による各因子の平均とt検定結果

|               | 多群<br>(n=2) |      | 少群<br>(n=2) |      | t 値    |
|---------------|-------------|------|-------------|------|--------|
|               | M           | SD   | M           | SD   |        |
| I. スタッフ対応の良好さ | 41.18       | 4.46 | 38.78       | 4.69 | 2.47*  |
| II. 子育ての見通し   | 22.50       | 2.35 | 21.47       | 2.70 | 1.93   |
| III. 施設の利用環境  | 15.23       | 1.28 | 13.64       | 2.06 | 4.16*  |
| IV. 子どもの活動場所  | 15.52       | 1.14 | 15.19       | 1.45 | 1.19   |
| 合計            | 94.43       | 7.91 | 89.08       | 8.41 | 3.09** |

\* $p < .05$  \*\* $p < .01$

図1：総合評価に及ぼす影響についての重回帰分析結果



\* $p < .05$  \*\* $p < .01$

注：破線は有意水準に達しなかったことを示す

中上位2施設を利用者多群（回答者数56名）、下位2施設を利用者少群（回答者数36名）として、各因子および合計得点の比較をおこなった（表5）。

t検定の結果、〈スタッフ対応の良好さ〉〈施設の利用環境〉〈合計〉において、利用者多群の方が少群よりも有意に得点の高いことが示された。

## 考察

本研究では、拠点事業をおこなう施設の利用者を対象に満足度調査を実施した。そこで以下、得られた結果をもとに拠点施設のどのようなものが利用者の満足につながるかを考察する。また、多くの親子が訪れる施設の特徴についても検討する。

利用者の満足につながるもの

利用者の満足度を規定する要因として〈スタッフ対応の良好さ〉〈子育ての見通し〉〈施設の利用環境〉〈子どもの活動場所〉が抽出された。すなわち、これら4つの要因が拠点施設に対する利用者の満足を支えていることが示された。

第Ⅰ因子の〈スタッフ対応の良好さ〉は、親子への親身な対応や助言、適切なサービスへの紹介などから構成されており、施設内では保育のほか保護者への相談支援やソーシャルワークが求められているといえるだろう。利用者へのカウンセリングやソーシャルワークの重要性はこれまでも指摘されており（金子，2007；橋本，2003；橋本・扇田・多田・藤井・西村，2005；安川，2014）、本研究では利用者の満足度という側面からも確認された。

施設の常駐職員は、拠点事業の配置基準（厚生労働省，2017a）によるところもあり、保育士が担っているケースが多い（柏女・山本・尾木・谷口・林・網野・新保・中谷，2000）。しかしながら、多くの保育士が行政サービスやソーシャルワークに長けているとはかぎらない。そのため、専門の保育スキルとともに多岐に渡る知識とスキルの修得が、職務にあたるうえで必要であることが示唆された。

第Ⅱ因子の〈子育ての見通し〉は、保護者間のつながりや子育て体験の共有などの項目から構成されていた。岡本（2015）は、拠点施設で親同士が情報共有をおこなうことが育児不安を低減させることを示している。本因子は、これらと同様に保護者同士が施設への来訪を通して交流することが重要であると示された。

第Ⅲ因子の〈施設の利用環境〉は、拠点施設の設備や空間のほか利用時間が含まれており、施設の構造に対する満足度を捉えたものと考えられる。ハードとソフトという言葉を用いるならば、本因子はハード面における利用者の評価が示されたものである。そのため、主にソフト面を示している拠点事業の4本柱に相当するものはない。しかしながら、拠点事業への満足を図

るうえでは、ハードとソフトの両側面からの検討が必要であると確認された。

第Ⅳ因子の〈子どもの活動場所〉は、子どもの遊び場所であることや同年代の子どもと出会う場であることを保護者が評価している様子を示している。本邦では3歳までの未就園児の約8割が家庭内で養育されている（厚生労働省，2009）。そのため、自宅以外で居心地良く過ごせ、子どもの心身の成長に役立つ場所として拠点施設が必要とされていることが伺えた。

以上のように本研究では拠点施設の満足を規定する4要因が抽出された。小野（2016）は、満足度の規定要因に〈スタッフの対応〉〈交流・仲間づくりの機会〉〈サービスの提供環境〉を示しており、これらは本研究の第ⅠからⅢ因子にそれぞれ相当すると考えられる。本研究では小野（2016）の結果に加え〈子どもの活動場所〉が抽出されており、利用者である保護者は、拠点施設を子どもの成長や活動を支える場所として求めていることが示された。

次に得られた規定要因と総合評価との関係について、総合評価の高い者は、全要因の得点も高いことが示された。また、〈スタッフ対応の良好さ〉〈子育ての見通し〉〈施設の利用環境〉は、総合評価に直接的な影響を及ぼしていた。ここから、4つの規定要因を充実させていくことが利用者の満足度を高め、特に直接的な影響のある先の3要因の充実に優先的に取り組むことが有益であると示唆された。

## 利用者が集まる施設の特徴

本調査において一日の利用者数が多かった施設の規定要因について検討した結果、〈スタッフ対応の良好さ〉〈施設の利用環境〉の得点が高かった。これらの要因は上述のように、前者は職員の親身な対応や専門援助、後者は拠点施設の構造面における居心地を表しており、このような要素を備えた拠点施設であることが利用者数増加に向けて重要と示唆された。

## まとめと課題

本研究では、地域子育て支援拠点施設の利用者評価を実施した。その結果、〈スタッフ対応の良好さ〉〈子育ての見通し〉〈施設の利用環境〉〈子どもの活動場所〉が満足度を規定する要因として示された。また、スタッフや施設環境の満足度が高い拠点施設は、利用者数が多いことが明らかとなった。

以上の結果を踏まえて、今後の課題を3点あげたい。まず、本研究で得られた質問紙を各施設で定期的に実施していくことである。4側面から利用者の評価を把握することは、施設運営が適切かどうかを振り返る手立てとなり、利用者に対してはサービスの質保証や説明責任を果たすことにもつながるであろう。ただし、本研究で作成された質問紙の内容を見てみると先述し

た拠点施設の基本事業である④子育て及び子育て支援に関する講習等の実施に係る項目が乏しいそのため、拠点施設で実施される講習や交流イベントを尋ねる項目を追加し調査を継続していくことも良いであろう。

2つ目は、本研究が一般型の施設のみへの調査であったため、連携強化型への調査も実施することである。新たな満足度の要因や実施形態による違いを見出すこともできると考えられる。

3つ目は、利用者数の多かった施設を対象とした質的な検討である。多くの親子が来訪する施設では、〈スタッフ対応の良好さ〉〈施設の利用環境〉の満足度が高かった。これらの満足度を高めるために施設でどのような工夫や方法をおこなっているのかについて、その詳細を観察や職員との面接を通して明らかにできるならば、他の施設もこれに倣うことができるであろう。

#### 〈引用文献〉

- 橋本真紀（2003）地域子育て支援センター職員の養成に関する考察 1 日本保育学会大会発表論文集 56, 146-147.
- 橋本真紀（2011）地域を基盤とした子育て支援実践の現状と課題—地域子育て支援拠点事業センター型実践の検証から— 社会福祉学 52 (1), 41-54.
- 橋本真紀・中谷奈津子・越智紀子・水枝谷奈央・山縣 文治（2009）地域子育て支援拠点事業の業務の業務分析指標試案の作成：専従保育士の業務内容の定量的把握に向けて— 生活科学研究誌 8, 151-163.
- 橋本真紀・扇田朋子・多田みゆき・藤井豊子・西村真実（2005）保育所併設型地域子育て支援センターの現状と課題—A 県下の地域子育て支援センター職員と地域活動事業担当者、保育所保育従事者の比較調査から— 保育学研究 43 (1), 76-89.
- 柏女霊峰・山本真実・尾木まり・谷口和加子・林茂男・網野武博・新保幸男・中谷茂一（2000）保育所実施型地域子育て支援センターの運営及び相談活動分析— 日本子ども家庭総合 研究紀要 36, 29-57.
- 金子恵美（2007）地域子育て支援拠点におけるソーシャルワーク活動—地域子育て支援センター全国調査から— 日本社会事業大学研究紀要 54, 129-150.
- 川喜田二郎（1967）発想法—創造性開発のために— 中央公論社
- 厚生労働省（2009）平成 21 年度全国家庭児童調査 〈<http://www.mhlw.go.jp/stf/houdou/2r9852000001yivt.html>〉（2017 年 9 月 25 日アクセス）
- 厚生労働省（2017a）地域子育て支援拠点事業実施要項 〈<http://www.mhlw.go.jp/file/06-Seisakujouhou-11900000-Koyoukintoujidoukateikyoku/0000103063.pdf>〉（2017 年 9 月 25 日アクセス）
- 厚生労働省（2017b）地域子育て支援拠点事業実施状況 〈[http://www.mhlw.go.jp/file/06-Seisakujouhou-11900000-Koyoukintoujidoukateikyoku/kyoten\\_kasyo28.pdf](http://www.mhlw.go.jp/file/06-Seisakujouhou-11900000-Koyoukintoujidoukateikyoku/kyoten_kasyo28.pdf)〉（2017 年 9 月 25 日アクセス）
- 松永愛子（2005）地域子育て支援センターの役割について—状況の多重性の中の「居場所」創出の場として— 保育学研究 43 (2), 166-178.
- 岡本聡子（2015）母親の育児不安解消における地域子育て支援拠点事業の効果：利用者アンケートを通じた測定と検証— 創造都市研究 10 (1), 1-12.
- 小野セレストア摩耶（2013a）A 市地域子育て支援拠点事業の利用者評価に関する研究：実施場所別の分析結果を中心に— Human Welfare 5 (1), 75-85.
- 小野セレストア摩耶（2013b）A 市地域子育て支援拠点事業の利用者評価：満足度を中心にして— 子ども家庭福祉学 13, 13-24.
- 小野セレストア摩耶（2016）A 市地域子育て支援拠点事業の利用者評価：2012 年度評価における満足度分析— 厚生指標 63 (1), 23-29.
- 富田道子（2014）広島都市学園大学地域子育て支援拠点事業の役割に関する一考察：利用者への質問紙調査から— 広島都市学園大学子ども教育学部紀要 1 (1), 61-70.
- 渡辺顕一郎（2010）地域子育て支援拠点事業における活動の指標「ガイドライン」— 平成 21 年度児童関連サービス調査研究等事業— 財団法人こども未来財団
- 安川由貴子（2014）地域子育て支援拠点事業の役割と課題— 保育所・保育士の役割との関連から— 東北女子大学・東北女子短期大学紀要 53, 79-88.